

## 対面授業に信頼をもっていたからこそ、 変わらないスタンスでオンライン講義を展開しました



### JO-BI 国際ビジネス公務員大学校

教務部長 かの こうじ 菅野 浩二 様

ICT推進委員会主幹 いぐち よしき 井口 義基 様

ビジネス分野学科長 兼  
就職推進室長 えんどう きこ 遠藤 紀子 様

公務員分野学科長 しらとり よしひろ 白鳥 吉洋 様

(本文中は敬称略)

#### Q1：はじめに JO-BI 国際ビジネス公務員大学校について教えてください。

**菅野：**JO-BI 国際ビジネス公務員大学校は1984年に開校しましたので、今年で37年目を迎えます。公務員分野と医療事務分野、ビジネス分野、保育分野、国際分野の5分野において、公務員科、公務員短期受験科、医療ビジネス科、医療事務科、総合ビジネス科、ホテル観光科、スポーツビジネス科、こども保育科、国際ビジネスマネジメント科、国際ホテル観光科といった複数の学科が設置されています。

本年度の学生数は346人、うちベトナムを中心に8ヶ国から39名の留学生が学んでいます。カリキュラムにおいては高度な資格の取得にも取り組んでいるほか、産官学連携の授業やプロジェクトを多く展開しており、就職率は県内でもトップクラスです。社会で活躍できる実践力、行動力のある学生、人材を育成しているというのが本校の強みだと感じています。

#### Q2：資格の取得に取り組まれているということですが、どのような資格でしょうか？

**遠藤：**総合ビジネス科では日商簿記検定の取得を目指しています。入学時点でのレベルにもよりますが、3級から1級まで学習していきます。1級を取得した学生は、その後在学中に税理士試験の財務諸表論と簿記論にも挑戦していますね。昨年度は1名が財務諸表論と簿記論に合格していて、今年度も1名が受験し結果待ちといった状況です。また販売士（リテールマーケティング）検定やFP（ファイナンシャルプランニング）にも力を入れているほか、Word、Excel、PowerPointといったパソコンの検定の取得も目指します。

スポーツビジネス科では、国家資格であるフィットネスクラブ・マネジメント技能検定3級のほか、販売士、食生活アドバイザー、それと今年度からNSCA 体カトレーニング検定も導入しています。実技的な試験ではAFAA International Group Fitness Instructorのほか、ストレッチングトレーナーパートナーや、キネシオテーピング®協会資格にもチャレンジしています。

**菅野：**医療事務分野では、医科医療事務管理士®技能認定試験や診療報酬請求事務能力認定試験、医師事務作業補助者（医療秘書）、医事コンピュータ、電子カルテの検定をはじめとして、多くの検定を1年から2年のなかで取得して卒業していきます。中には履歴書に書ききれないほど検定を取得している学生がたくさんいます。

保育分野では、やはり保育士になりますね。それとダブルスクールで通常の授業と同時に豊岡短期大学通信教育部の通信課程を受講することで、幼稚園教諭の免許を取得することができます。これは県内でも本校だけの特長となっています。

また留学生のクラスでは、ホテルや観光の専門分野の学習の他に、ビジネス上のパソコンスキルを学ぶために、WordやExcel、PowerPointの学習、それと日本で働くためには日本語能力も一定レベルがなければならないので、日本語能力試験（JLPT）のN2取得に向け、週の半分は日本語の授業を行っています。ただ今年7月実施予定のJLPTが中止になってしまったために、現在はその代替策として、J.TEST 実用日本語検定を受けてもらって、自分のレベルを一旦把握したうえで、12月のJLPTの受験に向けて再度勉強するという形で進めています。



▲ 世のため人のために働ける人材を育成したいと話す菅野先生

#### Q3：新型コロナウイルス拡大によって、御校が受けた影響について教えてください。

**菅野：**まずイベントごとは全て中止、もしくは規模を縮小して行うことになってしまいました。卒業式も中止で、卒業証書授与だけをクラ

スごとに各教室で行いました。

もちろん入学式も中止となり、登校初日は各教室を校長と私とで回って、入学を許可しますという内容の言葉と挨拶を言って歩きましたね。

例年であれば入学式のあとに、1日半ほどかけてオリエンテーションを行っていました。学生の手引という分厚いルールブックがあって、進級や卒業の条件のほか、色々な規則や約束事を伝えるのですが、今年は校舎での滞在時間を短くするために、最小限の内容を2時間で伝えて、あとは自宅学習用の課題を渡し、その日は下校させるという形にしました。

**白鳥**：本当ならオリエンテーションのときの動機づけが大事なんですよ。1年から2年の間、一緒に頑張る仲間になるわけですから。しかし今年は、動機づけをさせる時間が充分になかったんで、その点に関しては、影響が大きかったと思います。

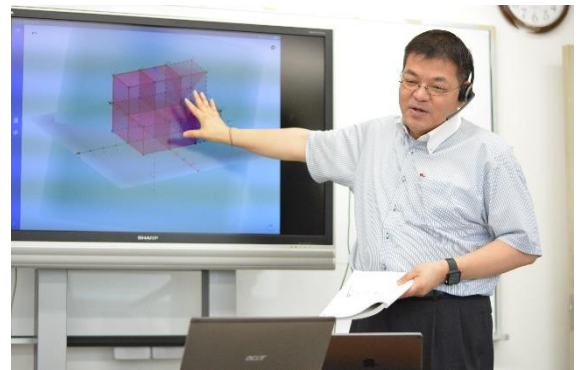
#### Q4:オンライン授業の導入までの経緯についてお聞かせください。

**井口**：これまでオンライン授業は実施していなかったんで、インフラの整備からということになりましたが、そんななかで私は、ある程度の知識を持っていたもので、まずは自分が動かないといけないと思うところがありました。

**菅野**：井口先生が一番大変でした。井口先生がいなかったら、5月11日からオンライン授業をスタートさせることはできなかった。本当に助けられました。

**井口**：ひとまず最低限で実施できる環境を整えるということで、カメラ付きノートPCを用意して、まずは通常の授業をそのまま配信するというスタイルから始めていきました。本校は対面授業が売りであって、オンライン授業に特化した学校ではありません。その部分に信頼を持って、入学していただいていますから、それを裏切らないように、普通の授業と変わらないスタンスで行うということを中心掛けました。

幸いにして、本校はMicrosoftのアカウント(ライセンス)を学生と職員の全員が持っていた(導入していた)こともあって、先生方も違和感なく入れたというのがありますね。実際にオンライン授業をやってみて、画面が見にくいといった細かいところはあるけども、通常の授業とそれほど差異はない形だったので、先生方もそれほど苦労することはなく、授業そのものについては大きなトラブルなくできた、といったところです。



▲ 動画による講義を行う井口先生

#### Q5:学生たちのPCの手配やサポートはどのようにされましたか？

**井口**：学科によって異なりますが、特段PCを利用しない学科もあれば、学校から貸与する学科もあります。そういう意味ではすべての学生が、というわけではありませんが、大半の学生はPC購入を前提に学校に入学することになっているので、そういう面ではありがたかったですね。

当初、PCの設定が間に合わなかった学生については、スマートフォンで授業を受けていました。特に公務員分野の学科については、全員がPCを購入しているというわけではないので、必然的にスマートフォンでの授業対応になりました。

PCの設定については、本人たちに「やってください」といっても、すべての学生がデジタルに明るいわけではないので、できることとできないことがあります。そこでゴールデンウィーク明けに段階を経て、密にならないように注意しつつ、校舎に来てもらう学生とそうでない学生、呼び出すクラスと呼ばないクラスといったように、登校する人数を絞ってセッティングをしていき、その後、自宅で試してもらったという形で進めました。

#### Q6:実際のオンライン授業はどのような形で進めていましたか？

**白鳥**：公務員対策の授業については、同じ授業内容のクラスが複数あったので、合同で行うようにしました。授業の進め方は通常と同じです。公務員の場合は講義がメインになってくるので、科目毎にとにかく授業を進めていきます。どうしても一方通行の授業になってしまいますが、特に公務員短期受験料のクラスの場合は、4月に入学し、9月の試験を受験することになるので、短期間で完成させないといけませんので仕方ありません。

ひとつの授業を受けている学生は90名くらいになります。画面越しに表示される顔も90名ともなると、全員の顔を見ることはできません。なかには寝てしまっている学生もいるかもしれないし、参加はしているのだけれども聞いていないという学生もいるかもしれません。

ただし、知能系の授業では、問題を授業内に解くようにしているのですが、5分とか10分の時間を与えて、できた人とか、もう少し時間が欲しいという人にはチャットを使ってリアクションしてもらうようにしました。授業中も発言などをしてもらい、一方通行になりがちな部分を少しでも解消できるようにしていました。

また授業としてはその時間で終わってしまいますが、質問があれば、クラスのLINEで連絡が取れるようになっているので、LINEとかメールをください、という形で質問を受けていました。

実際にこの問題を教えて下さい、と送られてきたものを解説してあげたことが何回かありましたが、双方向でやり取りできるわけではないので。質問されたことに返すというだけで、本当にわかっているのかという確認はなかなか難しいですね。



それと、出欠についてはチャットに名前を書き込むようにさせていました。ただ私は授業をやっている最中で、それを見て出席を取るのは難しいので、担任の先生に同時に見てもらって、チェックをしてもらおうようにしていました。

**遠藤**：スポーツビジネス科では、スポーツイベント運営実習という授業がありまして、学生が集まってグループワークを行います。オンライン上でグループ別に話し合いをしてもらい、その後また全員で集まって、といった形で行いました。学校にいなくてもみんなで繋がることができましたので、非常にプラスだったと思います。

また私自身は Word と Excel の授業を担当していますが、自分が操作している画面を学生に共有して、先生と自分の操作する画面を半分ずつに表示させるようにしていました。先生側の画面を見て、学生も操作する、というやり方ですね。あとは実際に問題を解いたりしてもらったときは、解き終わったら「いいね」ボタンを押してくださいと言っておいて、全員が終わったら次の問題、というような形で進めていました。

## Q7:就活などでのオンライン活用はどのようにされましたか？

**遠藤**：就職活動に関しては、対面での合同企業説明会などがすべて無くなってしまったので、Zoom を使ったオンラインでの説明会を、6月と7月の計2回実施しました。初回は本校だけでの実施でしたが、2回目は姉妹校を含む FSG カレッジリーグ全体に声を掛けまして、合同での開催となりました。

企業様には2回合わせて9社にご参加をいただきました。学生側の参加者は60～70名で、その中には留学生が15名ほど含まれています。学生には事前に自宅の Wi-fi 環境を確認してもらって、問題ないようなら自宅から、留学生に関しては多少不安もあったので、学校に来て参加してもらいました。

実施後、参加企業の方に感想を伺いましたが、当初こそオンラインということで、学生の反応が見えない分、説明がしっかり伝わるか不安だったものの、コンタクトを取る機会が少なかったので良い機会になったと言っていました。学生からも、企業の方と話せるだけでもいい機会になったので、就職活動のモチベーションを下げずに頑張りたいと言ってくれたので、実施して本当に良かったと思います。

また実際の就職活動については、学生はオンラインでの面接の経験がなかったので、導入としては難しかったのですが、就職支援サイトなどを利用してオンライン面接の受け方などを視聴してもらったり、担任が面接官役になってオンラインで練習を行ったりすることで、少しずつ慣れていったところで、本番を迎えることができたと思います。



▲ チャット・ビデオ通話による質疑応答に対応する遠藤先生

## Q8:オンライン授業を行って、何か新たな発見などはありましたか？

**菅野**：保育分野の方ではオンライン授業の最中に、学生が映るカメラの映像を見たら、保護者も一緒に見ていた、ということがありました。オンライン授業参観といった感じですが、その保護者の方も「普通の授業と変わらないね」と言ってくれていたみたいで、これも信頼につながるのかなと思いました。見てもらうというのは大事なことです。学生たちが普段どんな授業を受けているのか、またどういった反応をしているのかということを保護者に見てもらえるという、とてもいい機会になったように思います。

それと授業中や授業後の質問に関しては、「質問しやすかった」という意見と、「しにくくなった」という両方の意見がありました。画面がみんなに見えるから恥ずかしいという声もありましたし、対面でないからこそ聞ける、という子も多くいて個人差がありましたね。授業が終わったあとに、先生に直接でチャットで聞いてきたり。控えめな子は、やはり恥ずかしさを感じるみたいですね。

## Q9:先生同士でオンライン授業のやり方を共有するといったことはしていましたか？

**白鳥**：教務室の中で、ああだった、こうだった、という話はよくしていましたね。

**菅野**：情報の共有は常にしていましたし、オンライン授業やってみてどうだった、という職員の感想と学生の感想を Teams のスレッドで、みんなで見えるように共有していました。良かったところ、悪かったところを全員で見られるので、良かったところは真似したり、悪かったところは、これはもうやらないほうがいいねと削除したりとか、そういった協議や情報の共有をやっていました。

## Q10:現在の状況と今後のオンライン授業への考え方についてお聞かせください

**井口**：現在は状況も落ち着いたこともあり、対面の講義スタイルに戻ってはいますが、振り返ってみるとオンライン授業については「違和感はなかった」という意見が圧倒的に多かったですね。そういう授業のやり方をしてきた、ということへの評価といってもよいかもしれません。対面授業をイメージしたオンライン授業が普通にできた。こういうのがオンライン授業で便利ですよ、というのを全面に出していれば、また違っていただかもしれませんが、対面授業と同じようにやっていたので、学生にとっては違和感なくオンライン授業に入りこめたと、だからこそ現在の対面授業に移行できたのだと思います。

プラスアルファで、先生方にはオンライン授業にならない状態、現状でも PC を使えばこんなことができるんだ、ということを理解してい

ただけなので、現在の授業のなかでも活用できているということが一番良いことだったなと思っています。

**白鳥**：問題集の解答などについても、PDF のデータを Teams のファイルにあげて配っています。ここに解答が入っているから好きなときに見てください、といったことができますからね。それはメリットなので、今でも継続しています。

**井口**：もちろんまたオンライン主体に変わることが起きても、シフトできるような体制を今も残しています。学生にも Teams は入れたままの状態にしておいてと伝えてありますし、使い方にも慣れてきていると思いますので、そういったときにも大きな問題にはならないかなと思います。

ただ、インフラそのものは不安定なところもあるので、そこだけは早めに対応していけないといけないかなと思っています。留学生にも貸出用の PC の準備をしていますが、そういったものがなくなってしまうと難しいですね。

いずれにせよ公務員の採用試験でも、WEB での試験や集団面接が実施されるようになりました。その対応は個々にするかたちになりましたが、今後はそういうところが多く出てくる可能性があります。試験そのものも変化していて、今は紙ベースだが、やがてオンラインに変わってもおかしくはありません。一般企業の就職試験も、公務員試験も同様な流れが考えられますので、今後はそういった点でも対応が必要だと思っています。



▲ 黒板を PC カメラで映写し対面授業と同様に講義している白鳥先生

### Q11:公務員関連等で TAC の教材をご利用いただいておりますが、教材の質は如何ですか？

**白鳥**：とても信頼しています。我々が持っているこれまでの過去問だけでなく、新しい種類の問題に慣れておくことも必要ですからね。特に模試は受験者も多いですし、これを受けることで全国の中で自分の位置がどの辺にあるのかを知る機会になりますから、模試については本当に信頼していますし、頼りきりです。また適性試験については 60 回ものを使わせてもらっています。こちら他他の出版社と同様の問題がありませんので、充分活用させていただいています。

### Q12:今後の御校の展開についてお聞かせください。

**菅野**：私が常日頃から言っていることなのですが、何事も「目的」が大事だと思うのです。確かに「目標」も大事ですが、目的を明確にし、そこに向かうためのひとつの「しるべ」となるものが「目標」なのではないかなと。だからこそ学生達には自分がなぜ働くのか、それは自分だけのことじゃなくて、就職して、サービスを提供したり、モノを売って、モノを売った先の家族が幸せになる。自分を通して、その地域が幸せになるのだということを、理解してもらいたいのです。

ですから「自分のためだけに働くんじゃないよ」と言い続けています。世のため人のために働く、そういう人材になってもらいたいですからね。

目的が明確だと、学校を辞めたりすることはありません。これは就職についてもそうです。今は仕事を簡単に辞める人が多いけれど、これは実は目的がなかったのではないかなと。そうならないためにも、自分自身の核となる目的を見つけて、大きく育てていただきたいなと思っています。

そのためにも学校としては、産官学、いろいろな企業や行政と連携をして、プロジェクトを展開して行って、学生達に何かひとつでも成功させるようにして、成功体験を作って、卒業させたいと思っています。学生たちが自分たちで課題に対してどうアプローチするか、というのも自分たちで考える。考察するということが大事ですから。

何事にも真剣に向きあい、考えて、ぶつかっていく。最近の学生は、どうしてもそういった部分が弱いので、それをクリアするためにも、うちは産官学プロジェクトを通して、レベルの高い、地域に貢献できる、社会に貢献できる、そういう人材を育成する。それが、我々の目的だと思っています。

## ～インタビューを終えて～

今回は Zoom での取材をさせていただきました。新型コロナウイルス拡大の中、早い段階でオンライン授業を導入していることが印象的でした。また、新たな取組みの中で、各先生が得た経験を先生同士で情報共有し、学生指導していることに感銘を受けました。忙しいところ、取材をお引き受けいただきありがとうございます。

※Zoom は、Zoom Video Communications, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※Microsoft Office は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

「葉」では、専門学校インタビュー以外にも、さまざまな情報発信をしています。

「TAC 専門学校向けサービス」ホームページより葉デジタル版をダウンロードいただけます! 是非ご覧ください。

「TAC 専門学校向けサービス」HP <https://www.tac-school.co.jp/senmongakko.html>